

②【複数年度(1年目)】東北の「防災道の駅」いいでにおけるハード・ソフトの取り組み実験(山形県飯豊町)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ 一日宿泊避難実験や避難訓練等を行い、防災に備えた道の駅の方向性となる事例やガイドラインの構築を検証する。
- ・ 災害発生時の「防災道の駅」としての実効性を確認する有効な検証であり、既往の災害対応の経験を踏まえた内容であるため、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取り組みとなること。

2. 今年度の実験内容、実験結果

- ①防災セミナー・防災ワークショップ
⇒満足度は80%超え、基準を達成
- ②宿泊・炊き出し、災害機器などの実験
⇒実験後のアンケートにより、衛生面等の課題を把握
- ③「防災道の駅」に関するアンケート調査
⇒「防災道の駅」の認知度、避難経験等について調査



宿泊実験実施状況



防災トイレ組立て状況



防災セミナー実施状況

3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
現状の防災設備の稼働体験調査及び追加防災設備の稼働体験調査	簡易トイレ、災害時運用ドレーン等の体験
実験協力ボランティアへのアンケート調査	避難・防災活動の知見、災害時に知見を生かして役立てることを目的とした調査
日常実験	防災設備・防災グッズの説明等による意識啓発、非常時の予行演習・稼働実験
非常時避難訓練・宿泊体験実験	大規模地震・災害等を想定した道の駅いいでBCPIに沿った訓練

②【複数年度(1年目)】東北の「防災道の駅」いいでのにおけるハード・ソフトの取り組み実験(山形県飯豊町)

4. 今後のスケジュール

- 令和6年4月～6月 実験計画作成、関係機関調整
- 令和6年7月～8月 協議会、現地打合せ
- 令和6年9月 実験実施
- 令和6年10月～12月 結果収集、分析、とりまとめ

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
施設や人的な体制が整っていると感じた。 第3ステージの道の駅を引っ張っていく実験になる。 幅広い方に参加していただきたい。特に住民の参加を図っていただきたい。	町のホームページ、物産館の近隣の自主防災組織への周知、新聞折込で周知している。 その他、道の駅関係者(所在自治体及び指定管理者)について、県内には山形県から、東北の道の駅関係者には東北「道の駅」連絡会から案内いただいた。早速、道の駅猪苗代から申し込みがあった。
災害はいつ起こるかわからず、備えが必要である。BCP策定後もブラッシュアップが必要であり、そのためにも実験は大切である。 11月の炊き出し訓練は、一般利用者がいる中で実施すると思われる。災害時はそのような状況になると思われる。 道の駅いいでの駐車場は、防災拠点自動車駐車場に指定されているが、災害時に車両が移動してもらえるか。	車両移動の訓練をしており、車両の運転手を声を出して探している。運転手が見つかったら実際に移動はさせない。 防災拠点自動車駐車場の運用については、まだ詰め切れていない。今後、国道事務所、指定管理者、町が集まって運用を協議したい。
防災関係の社会実験は珍しい取り組みである。防災に関してリーダー的な、先進的な取り組みである。道の駅防災のスタンダードな取り組みになってほしい。 良いところも問題点も含めて共有願う。	道の駅によって想定される災害は異なるため、道の駅に合わせたアレンジは必要と考えるが、どこの道の駅でも使えるスタンダードな対策マニュアルやガイドラインとなるように取り組みたい。
災害対応や避難者受け入れは、災害発生の時間や季節によって対応は変わってくる。	実際の実験をその時間、その季節にできるかは、予算と物産館の繁忙期との兼ね合いで困難と考えるが、そのような場合を想定した訓練にしたい。自治体と管理者で温度差が生じている道の駅があり、その対応も検討する必要がある。

6. 評価

- ・ 順調に実験が進んでいる。
- ・ 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。